

第56号

Institute for Interdisciplinary Studies KONAN University

2013年3月21日

甲南大学
総合研究所報

甲南大学総合研究所

〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1

電話 (078)435-2331(ダイヤルイン)

◎研究課題 (No124)

「地域文化保全のための伝統的知識Traditional Knowledgeの再評価

—持続可能な衣・食・住の教育をベースにした環境教育のエリア研究—

* 研究の目的

今日、地球のあらゆる地域で、地球温暖化問題の影響による気候変動、異常気象などが多発化してきている。とくにアジア地域では深刻なレベルで環境破壊が進んでおり、持続可能性や自然共生社会の実現のための仕組みづくりが急がれ、国連各機関での国際的な合意形成、政策の整備がなされてきている。そのなかでも、地域の環境や土地などの自然資源、動植物などの遺伝資源との関係が先住民族によって一定の調和のもとに保持されてきたことが注目されている。それは長期にわたって地域コミュニティのなかで守られてきた「伝統的知識TK: Traditional Knowledge」(国連宣言)によるところが大きい。その重要性が近年、国際的に再評価されてきている。国際的な趨勢としては、「生物多様性条約(CBD: Convention on Biological Diversity)」(1992年)の発効を皮切りに、「先住民族の権利に関する国連宣言」(2007年)、「国連ミレニアム開発目標(MDGs: Millennium Development Goals)」(2000年)、「テサロニキ宣言(環境と社会に関する国際会議: 持続可能性のための教育とパブリック・アウェアネス)」(1997年)など、さまざまな領域において、伝統的知識と文化保全の重要性が課題となっているのである。この「伝統的知識」を軸に、環境と持続可能な生活様式を考えなおし、再評価することは、環境教育においても大きなインパクトを与えるものと考えられる。

本研究では、アジア地域のコミュニティの環境、歴史・伝統、衣食住などの文化的多様性と「内発的な発展」に根ざした伝統的知識の集積による環境教育の研究開発を行なう。このような研究成果は、地域の多様な自然環境、固有な文化環境を保全する一つの方法論として、ライフスタイルへと具体的に適用できる戦略を提案することである。

テサロニキ宣言によって示される、「持続可能性は道徳的・倫理的規範であり、そこには尊重すべき文化的多様性や伝統的知識が内在している」という実相において、環境教育のアジアネットワークの具体的な運用を通じて、地球環境問題解決のための理論と実践の両側面を総合的に明らかにすること、それが本研究の目的である。

* 研究の内容および効果

本研究プロジェクトでは、(1) 内発的な発展による衣食住をベースにしたライフスタイルの調査、(2) 先住民族indigenous peopleの伝統的知識の収集と検証、(3) 固有文化と伝統的知識の保全のための環境教育の展開、の3つを柱に展開する予定である。

(1) 衣食住をベースにしたライフスタイルの調査—内発的・自然発生的地域構造の研究—

持続可能なライフスタイルについての調査研究を進める。アジア地域を中心にしながら、これまでに構築してきた甲南大学、タイ・プラナコーン=ラジャバト大学、マレーシア・マラヤ大学における環境教育ネットワーク(TV会議システム)を利用しながら、リアル・タイムな環境情報をさらに得るとともに、生きた「衣食住」の環境教育教材を活用する「環境教育」の一層の充実化をはかる。さらに、この調査研究で得た情報や事例を「環境教育学」として理論化し、アジア地域の住民のライフスタイルにおいて応用・活用できることを実証する。

さらに、環境と持続可能性のための教育の実現をめざし、アジアの地域環境や伝統文化を尊重する環境教育プログラムによって、環境保全、予防・衛生、人権、平和、貧困、差別などをテーマとする「国連持続可能な開発のための教育の10年(Education for Sustainable Development: ESD)」(2005-14年)を具体的に展開する。

その効果として、マレーシアおよびタイを中心とした地域の伝統的知識を保存する環境教育という視点か

ら、地域の衣・食・住を枠組みにしたプログラムによって、アジア地域の生活環境の改善を実現する方法論を模索する。

(2) 先住民indigenous peopleの伝統的知識の収集と検証

申請者は、これまでにマレーシア・ジョホール州カンボン・ベタにあるエンダウ・ロンピン国立公園にて、マレーシア先住民(Orang Asli) Jakun People (ジャクン族)のライフスタイル、民間療法と生物資源の利用、宗教的儀式について、フィールド調査を実施してきている。

さらに、環境に負荷を与えないで生物資源や自然資源を賢く利用する「伝統的知識」の伝承、またそれを継承しているコミュニティのエートス(倫理的態度)についても研究する。また、ほかの地域の少数民族との文化的パターンの比較検証を重ねることで、多様な伝統的知識の共通性と差異性についても研究する。

その効果は従来の環境教育の表層的な活動を、人々の深層的なエートスの次元にまで深めることになるだろう。

(3) 固有文化と伝統的知識の保全のための環境教育の展開

伝統的知識には、①フォークロアfolklore、②遺伝的資源genetic resources、③伝統的知識を総称したものが含まれる。アジアのなかでもとりわけ、マレーシアやタイの熱帯雨林は生物多様性のホットスポットであり、遺伝資源が豊富にあるが、今日においては、長い間先住民の生活の知恵によって守られてきた薬草に関する知識が、先進国・多国籍企業により利用され薬用植物特許紛争になるなどの問題が起こっている。伝統的知識の問題をめぐっては、コミュニティを形成し、継承していくための道徳的・倫理的規範をも含みながら、どのように実効化されていくのか、具体的なストラテジーを提案する。

その効果は、環境倫理学の原理の確立に資するところが大きいであろう。

*総合研究として研究することの必要性

今日、グローバリゼーションによって、地域の環境や固有文化そして地域の経済構造が破壊されている。とくに、アジアの諸地域においては、そのような環境破壊状況が深刻なレベルで進んでいる。そのなかでも生物の多様性の損失については、非常にその影響が深刻に受け止められている。したがって、これまで地域の多様な動・植物相や生態系を、地域の文化的特性に応じて保全してきた「伝統的知識」の役割を明らかにする必要がある。こうして、各地域コミュニティにおいて生物多様性を固有な文化の保全の方法を構築する環境教育の取組みの研究が必要とされている。そのために、本研究は学際性、国際性、統合性を基盤にした総合研究を展開する予定である。

とくに国際性については、申請者はこれまでに東アジア地域においては中国・北京大学、北京北大資源学院、台湾・国立政治大学との連携、東南アジア地域においては、タイ・プラナコーン大学、マレーシア・マラヤ大学と連携して、国際環境教育ネットワークを構築してきた。さらに、TV会議遠隔システムを使用し、既に各大学間の講義(地域連携科目「国際環境教育ネットワーク」・広域副専攻科目「環境教育の実践Ⅰ・Ⅱ」・大学院「フィールドワーク特論Ⅰb・Ⅱb」・「国際環境ネットワーク」・国際交流センター「エリア・スタディーズ」)を定期的に連携して運用をするなど、教育・研究においても国際的に学術・教育交流の充実化をはかってきた。今後も、甲南大学をフォーカルポイントとして、東アジア(中国北京大学・北京北大資源学院・台湾国立政治大学)・東南アジア(プラナコーン大学・マラヤ大学)の大学間を結びつけ、地域環境や文化的多様性の保全をめざした情報を共有するとともに、地域の固有環境を軸にして、学際的な総合研究を本チームでは、一層の推進を試みる予定である。

*研究チームメンバーと研究課題

谷口文章(研究代表幹事) 文学部

理論と実践の統合した環境教育学の研究

高阪 薫

甲南大学名誉教授

環境と日本文学の研究、沖縄祭祀のフィールド調査

岡田元浩

経済学部

経済学史からみたアジアの労働環境

小西幸男

国際交流センター

国際理解教育と環境教育

曾我部晋哉	スポーツ・健康科学教育研究センター	ヘルス・サイエンスからみた環境教育論
橋口 誠	甲南学園常任顧問・甲南中・高等学校元校長	環境教育による中・高等学校・大学一貫教育
近藤靖宏	甲南大学教職センター・環太平洋大学常任理事	いのちの教育からみた環境教育
Chinatat Nagashinha	タイ・プラナコーン＝ラジャバト大学環境教育副所長・甲南大学国際環境教育ネットワーク講師	タイにおける環境教育と国際ネットワークの構築
Azizan Baharuddin	マラヤ大学教授・マレーシア政府イスラーム理解研究所副所長	イスラーム理解教育と環境教育の展開
Shaliza Ibrahim	マラヤ大学教授	マレーシアにおける環境都市工学
谷 莊吉	高齢者ケアセンター甲南診療所所長	ヘルスプロモーションと環境の医学
今井佐金吾	広島修道大学名誉教授・甲南大学非常勤講師	地球環境科学論
小島夏彦	大阪工業大学・甲南大学非常勤講師	淀川流域圏保全と生物多様性
清水芳久	京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター・甲南大学非常勤講師	流域の統合管理システムの構築
赤尾整志	自然環境復元協会理事	衣・食・住と生活環境教育
浅野能昭	トヨタ白川郷自然学校校長・甲南大学非常勤講師	国立公園をめぐる環境政策と環境教育
大久保規子	大阪大学大学院法学研究科教授・甲南大学非常勤講師	グリーン・アクセス・プロジェクトと協働のしくみ
北村 真	弁護士・甲南大学非常勤講師	自然の権利訴訟
有吉直美	株式会社チクマ	環境教育における服育の可能性
近藤武光	〃	服育活動と環境授業
中村尚弘	〃	服育環境プログラムの開発
藤田隆司	〃	服育環境プログラムの開発
前田良治	〃	LCAから捉えた衣服の歴史
天野雅夫	神戸親和女子大学通信教育課非常勤講師	里山保全とコモンス論
渡辺りわ	大阪産業大学非常勤講師	環境プラグマティズムと環境教育
高原哲史	神戸医療福祉専門学校非常勤講師	環境教育のモラルジレンマ・プログラム